

## 日赤図書館協議会 10年のあゆみ(1994年～2003年)

総会・会員数	活動状況
1994年 (平成6年)  第1回総会 (7月9日)  会員10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月8日、発起人4人が、日本赤十字社病院図書館室担当会議の開催を呼びかけた。</li> <li>・7月9日、ホテルトーコー大阪で「日赤ライブラリアンの会」が開催され、10名が参加した。世話人代表(名古屋第一日赤の笠原廣子氏)と世話人2名を選出した。</li> <li>・「病院図書館」(近畿病院図書館協議会)第14巻第3号(8月発行)に、「日赤ライブラリアンの会が発足!」が掲載された。</li> <li>・9月に、「日赤ライブラリアンニュース」第1巻第1号を発行した。</li> </ul>
1995年 (平成7年)  第2回総会 (7月8日)  会員19名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月8日に名古屋第一日赤にて、第2回総会・研修会を開催し、16名の参加を得た。</li> <li>・10月20日、世話人代表と世話人2名が、日本赤十字社企画課(以下、本社企画課)を訪問し、「日赤ライブラリアンの会」の設立主旨、経過説明を行い、今後の活動について指導していただいた。</li> <li>・「日赤現行医学雑誌所在目録 1995」を発行した。</li> <li>・9月に、会報第2巻第1号を発行した。</li> </ul>
1996年 (平成8年)  第3回総会 (8月29日)  会員26名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月10日、本社承認の職能団体として承認してもらうため、本社企画課へ「日赤ライブラリアンの会企画書」(設立理由と承認申請)並びに「資料の共同利用に向けて一日赤施設の医学資料共有化のために」を提出した。</li> <li>・「赤十字のうごき」No.249(1月号)に「日赤病院図書館のネットワークー日赤ライブラリアンの会発足」が掲載された。</li> <li>・本社企画課が日赤病院の現行医学雑誌目録を作成することになり、3月15日にデータ提出依頼が本社より出された。</li> <li>・7月5日、本社で研修会を開催するにあたり、便宜、供与のお願いを企画課に提出した。</li> <li>・8月29日、30日に3回総会・研修会を本社で開催し、33名の参加を得た。</li> <li>・8月29日の研修会で、本社企画課により「資料の相互利用をするために一相互利用の現状と申込方法」の説明が行われた。</li> <li>・本社企画課から本会の名称変更に関する指導を受け「日本赤十字病院図書館室担当協議会」と変更した。</li> <li>・会則と年会費(3,500円)を定めた。</li> <li>・松江日赤の高橋勝院長が、当会会長に就任した。事務局は名古屋第一日赤の笠原氏が担当することになった。</li> <li>・9月9日に、本社企画課で作成した「日赤現行医学雑誌所在目録」(平成8年4月現在)「相互利用の手引き」が全国の日赤病院に配布された。</li> <li>・会報第3巻第1号を発行した。</li> </ul>
1997年 (平成9年)  第4回総会 (8月22日)  会員37名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月30日に事務局が本社企画課を訪問した。その折、本社で作成した雑誌目録の利用状況調査を依頼された。</li> <li>・「医学図書館」第44巻第1号(3月発行)の”読者からの手紙”に「日本赤十字病院担当者協議会の発足」が掲載された。</li> <li>・3月8日に名古屋第一赤十字病院で平成8年度幹事会を開催し、7名が出席した。</li> <li>・5月10日～6月10日に図書館の文献検索状況に関するアンケート調査を実施し、会報の第4巻第1号で報告した。</li> <li>・8月20日に、日赤会館で平成9年度第1回幹事会を開催し、7名が出席した。</li> <li>・8月21日、22日に第4回総会・研修会を本社で開催し、32名が参加した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月22日～9月31日に、「相互利用と雑誌目録に関するアンケート調査」を実施した。</li> <li>・会長は松江日赤の高橋勝院長が留任。事務局は名古屋第一日赤の笠原氏が3月に定年退職されたため、浜松日赤の飯田に交替した。幹事5名と会計監査、協力役員1名の体制となった。</li> <li>・「赤十字の動き」No.271(12月号)に、「日本赤十字病院図書館担当者研修会開催」が掲載された。</li> <li>・12月に「相互利用と雑誌目録に関するアンケート調査報告」を本社企画課に提出した(会報第5巻第1号に掲載)。</li> <li>・会報第3巻第2号(1月)、第4巻第1号(5月)、第2号(11月)を発行した。</li> </ul>
--	---



幹事会



笠原さん送別会



<p>1998年 (平成10年)</p> <p>第5回総会 (8月3日) 会員36名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月6日に事務局が本社企画課を訪問した。</li> <li>・2月20日に高槻日赤で平成9年度第2回幹事会を開催し、6名が出席した。</li> <li>・8月2日に日赤会館で平成10年度第1回幹事会を開催し、6名が出席した。</li> <li>・8月3日、4日に第5回総会・研修会が本社で開催され、40名が参加した。第5回から研修会に公開講座を設けた。</li> <li>・会則の改正を行い、第七条(役員)に、任期、会長の選出方法、会長以外の役員の選出方法の項目を付け加えた。</li> <li>・会報第5巻第1号(5月)、第2号(11月)を発行した。</li> </ul>
--	---



幹事会：高槻日赤

<p>1999年 (平成11年)</p> <p>第6回総会 (8月5日) 会員40名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月25日に事務局が本社企画課を訪問した。</li> <li>・「ほすびたるらいぶらりあん」(病院図書筆研究会)の”Network Information”コーナーに当会の研修会情報を提供するようになった。第24巻第1号(3月発行)から掲載されている。</li> <li>・3月6日に高槻日赤にて平成10年度第2回幹事会を開催し、6名が出席した。</li> <li>・8月4日に日赤会館にて平成11年度第1回幹事会を開催し、6名が出席した。</li> <li>・8月5日、6日に第6回総会・研修会を本社で開催し、40名の参加があった。</li> <li>・会則を改正して、平成12年4月から当会の名称を「日赤図書館協議会」とすることになった。</li> <li>・松江日赤の高橋勝院長が退職されたため、会長は同日赤の武田博士院長に交替した。また、幹事1名と会計監査が交替した。</li> <li>・会報第6巻第1号(5月)、第2号(11月)を発行した。</li> </ul>
--	---

<p>2000年 (平成12年)</p> <p>第7回総会 (8月31日)</p> <p>会員40名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月1日に「日赤医学雑誌合目録 1999」を発行した。</li> <li>・「専門情報機関総覧 2000年版」(専門図書館協議会・9月発行)の専門情報機関関係団体の一覧表に、当会が掲載された。</li> <li>・3月4日に静岡日赤にて幹事会を開催し、幹事6名が出席した。</li> <li>・7月25日に、本社企画課を事務局と幹事1名が訪問した。</li> <li>・8月31日に幹事会を日赤会館で開催し、6名が出席した。</li> <li>・8月31日、9月1日に本社で第7回総会・研修会を開催し、45名の参加があった。</li> <li>・会長が、松江日赤の武田博士院長から高山日赤の松下捷彦院長に交替した。事務局(浜松日赤・飯田)は留任。幹事5名、会計監査、協力役員1名の体制となった。</li> <li>・会報第7巻第1号(5月)、第2号(11月)を発行した。</li> </ul>
<p>2001年 (平成13年)</p> <p>第8回総会 (7月27日)</p> <p>会員43名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月1日、「日赤医学雑誌総合目録 2000」と「資料の相互利用一文献申込と受付のマナー」を発行した。この版から、すべての日赤看護大学・短大図書館の所蔵雑誌も掲載されることになった。</li> <li>・3月17日に高山日赤で、平成12年度第2回幹事会を開催した。幹事6名、協力役員1名が出席した。</li> <li>・4月25日～5月25日に、会員間における文献の相互利用についての調査を行い、会報第8巻第1号で報告した。</li> <li>・5月18日に事務局が本社企画課を訪問した。</li> <li>・7月25日に日赤会館で、平成13年度第1回幹事会を開催し、幹事5名と協力役員3名が出席した。</li> <li>・「日赤ライブラリアンニュース」を「日赤図書館雑誌」と改題し、第8巻第1号から、業者印刷とした。これに伴い、ISSN(国際標準逐次刊行物番号)と、医学中央雑誌の略名(日赤図書館誌)を取得した。10月1日に160部印刷し、一部1,000円で発売した。</li> </ul> <div data-bbox="871 826 1204 1058" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">幹事会：高山日赤</p>
<p>2002年 (平成14年)</p> <p>第9回総会 (7月19日)</p> <p>会員43名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月から、会員間でメーリングリスト(eグループ)を開始した。</li> <li>・2月に「日赤医学雑誌合目録 2001」を発行した。</li> <li>・3月30日に日赤医療センターで、平成13年度第2回幹事会を開催した。幹事6名と協力役員3名が出席した。</li> <li>・5月17日、本社企画課を事務局と幹事1名、協力役員2名が訪問した。</li> <li>・7月7日、エディターズミーティング・第1回編集者意見交換会(第19回医学情報サービス研究大会にて開催)に、事務局と幹事1名が出席した。</li> <li>・7月18日に平成14年度第1回幹事会を日赤会館で開催した。</li> <li>・7月18日、19日に日本赤十字社にて、第9回総会・研修会を開催し、44名が参加した。</li> <li>・役員改選で、会長の高山日赤・松下捷彦院長と事務局の浜松日赤・飯田が留任した。ほかに幹事8名、会計監査、協力役員5名の体制となった。</li> <li>・会報第9巻を、10月に200部発行した。同誌第8巻の掲載記事に著作権問題が生じたため、謹告を掲載した。</li> </ul>
<p>2003年 (平成15年)</p> <p>第110回総会 (8月11日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月1日に「日赤医学雑誌総合目録 2002」を発行した。</li> <li>・2月22日に静岡日赤で平成14年度第2回幹事会を開催し、8名が出席した。</li> <li>・5月23日に、事務局と幹事2名が本社企画課を訪問した。</li> <li>・7月13日に第2回エディターズミーティング(第20回医学情報研究大会)が開催され、事務局と幹事1名が出席した。</li> <li>・7月31日に平成15年度第1回幹事会を日赤医療センターで開催し、7名が出席した。</li> </ul>

<p>会員56名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月31日、8月1日に第10回総会・研修会を日赤医療センターで開催し、79名が参加した。</li> <li>・年会費の値上げ(4,500円)が承認され、これにより会則が改正された。</li> <li>・会報第10巻第1号(10周年記念号)を10月に発行予定。</li> <li>・日赤病院図書室実態調査を行う予定。</li> <li>・「専門情報機関総覧 2003年版」(専門図書館協議会)の専門情報機関関係団体の一覧表に当会が掲載される予定。</li> <li>・「日赤医学雑誌総合目録 2003」を発行の予定。</li> </ul>
	
<p>食事会：香港ガーデン</p>	





## 研修会記録(第1回～第10回)

### 1. 研修会開催状況

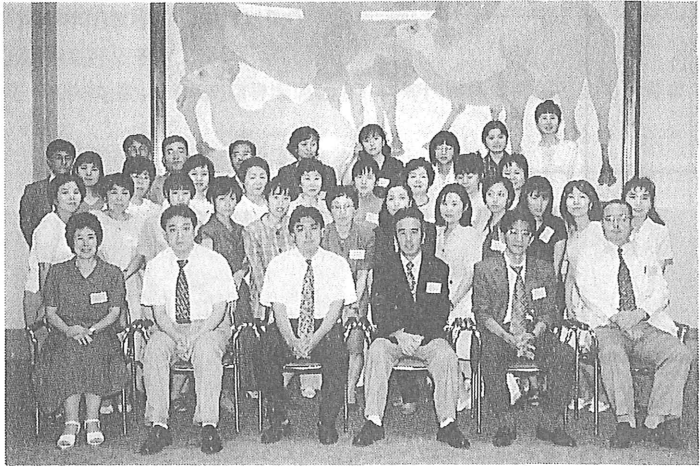
- 第1回研修会 ホテルトーコー新大阪(参加人数：10名)
- 第2回研修会 名古屋第一赤十字病院(参加人数：16名)
- 第3回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：33名)
- 第4回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：32名)
- 第5回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：40名)
- 第6回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：40名)
- 第7回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：45名)
- 第8回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：43名)
- 第9回研修会 日本赤十字社第201会議室(参加人数：44名)
- 第10回研修会 日赤医療センター講堂(参加人数：79名)

### 2. 研修会プログラム(第1回～第10回)

回	開催年月日	プログラム	講師・発表者
1	1994.7.9	自己紹介 日赤ライブラリアンの協力活動等(討議) 採択事項の確認とまとめ	
2	1995.7.8	研修会テーマ：相互貸借 1. 病院図書室の相互貸借サービスの急増にどう対処するか：日本病院会全国図書室研究会から 2. NACSIS-IRおよび文献業者の利用経験	宮岡千代子(名古屋第二赤十字病院) 木下久美子(高山赤十字病院)

	<p>3. 相互貸借業務報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 松江赤十字病院図書室</li> <li>2) 静岡赤十字病院図書室</li> </ol>	<p>森脇美智子 (松江赤十字病院) 天野いづみ (静岡赤十字病院)</p>
		 <p>名古屋第一赤十字病院</p>
<p>3 1996.8.29</p> <p>1996.8.30</p>	<p>資料の相互利用をするために：相互利用の現状と申込方法 特別講演 病院図書室の機能と担当者の役割</p> <p>実務講座：病院図書室の基礎業務</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の整理と提供：雑誌、製本、単行書</li> <li>2. 利用者援助と広報活動</li> <li>3. 病院図書室の管理運営：図書委員会予算、年報、広報、他</li> <li>4. 担当者の研修とネットワーク活動</li> </ol>	<p>浜口恵子 (高槻赤十字病院) 奈良岡功 (自治医科大学図書館)</p> <p>天野いづみ (静岡赤十字病院) 木下久美子 (高山赤十字病院) 森脇美智子 (松江赤十字病院) 飯田育子 (浜松赤十字病院)</p>
 		
<p>4 1997.8.21</p> <p>1997.8.22</p>	<p>パソコンの活用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットで情報入手：講義とデモンストレーション</li> <li>2. CD-ROMで文献検索：講義・実例</li> <li>3. 市販ソフトで業務の合理化：事例報告</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 相互利用に“アクセス”を利用して</li> <li>2) 資料管理に“桐”を利用して</li> <li>3) 病院図書室のためのソフト紹介</li> </ol> <p>ビデオ講座 看護文献の探し方とその利用指導について：『看護と図書館下巻』紀伊國屋書店業務についてのQ&amp;A</p>	<p>松下 茂、安保秀樹 (サマディア) 大西幸雄 (サンメディア)</p> <p>宮岡千代子 (名古屋第二赤十字病院) 前田夏子 (名古屋第一赤十字病院) 大西幸雄 (サンメディア)</p> <p>森脇美智子 (松江赤十字病院)</p>

1. グループディスカッション  
2. 総合ディスカッション



<p>5 1998.8.3</p> <p>1998.8.4</p>	<p><b>本社講演</b> 日本赤十字社の活動について</p> <p><b>基礎講座</b> 医学用語の学び方</p> <p><b>事例報告</b>：最近の話題から</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公共図書館の患者サービスを見学して</li> <li>2. 患者への医学情報提供を行う図書室の見学報告</li> <li>3. 当院の患者への図書サービス</li> <li>4. 地域開業医への医学情報の提供</li> </ol> <p><b>特別講演</b> 地域医療と病院図書室</p> <p><b>基礎講座</b>：資料の相互利用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献申込の手順とマナー</li> <li>2. 資料の所蔵館調査：インターネットを利用して</li> </ol> <p><b>特別講座</b> インターネットで資料の共同利用：Virtual Medical Library</p> <p>雑誌の新しい流通：オンラインジャーナル</p> <p>データベースソフトを業務に活用する：7/ceis、ファミルカー-Pro.の利用</p>	<p>本多典久（日本赤十字社医療事業部企画課長） 浜口恵子（高槻赤十字病院）</p> <p>渡邊幸代（医療センター） 安達栄子（長岡赤十字病院） 木下久美子（高山赤十字病院） 飯田育子（浜松赤十字病院） 山室真知子（京都南病院図書室）</p> <p>天野いづみ（静岡赤十字病院） 鳥淵早希子（和歌山医療センター） 杉本満信（医療研修推進財団）</p> <p>山下幸侍（サンメディア） 大西幸雄（サンメディア）</p>
-----------------------------------	--	--





6	1999.8.5	<p><b>基礎講座 レファレンス・ワーク</b>  <b>事例報告&amp;ディスカッション</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当院における相互利用の現状</li> <li>2. インターネットの利用</li> <li>3. 地域ネットワークへの参加</li> <li>4. 図書室業務4年目を迎えて</li> <li>5. 図書室の移転を経験して</li> </ol>	<p>下原康子（東邦大学付属佐倉病院図書室）          前澤好弘（長野赤十字病院）          岸根祐子（益田赤十字病院）          入田衛善子（旭川赤十字病院）          三宮啓子（高知赤十字病院）          原 紀子（大津赤十字病院）</p>
	1999.8.6	<p><b>公開講座</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者への情報リテラシー教育</li> <li>2. 専門図書館の広報活動：上司・組織へのPR</li> <li>3. 雑誌記事索引ファイル（国立国会図書館編）Web版</li> <li>4. 学術発表活動を支援できる図書館に</li> </ol>	<p>市谷みどり（慶應義塾大学医学部メディアセンター）          村橋勝子（経済団体連合会情報メディアグループ）          堤 豊（日外アソシエーツ）          山崎茂明（愛知淑徳大学図書館）</p>
7	2000.8.31	<p><b>公開講座</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無い知恵絞って安くて便利に：花の中老年デジタル時代を生きる</li> </ol>	<p>尾崎那知子（東京厚生年金病院図書室）</p>

<p>2000.9.1</p>	<p>2. ナレッジ・マネジメント 3. EBMと図書館員</p> <p><b>基礎教育講座 医学中央雑誌（インターネット版）の活用について 事例報告会</b></p> <p>1. Electric Journal の経験 2. 新入職員の図書室オリエンテーション 3. 病院図書室におけるパソコンの活用：Accessを利用して 4. 病院図書室の司書となって</p> <p>ランチセッション 事例報告を参考に情報交換 国立国会図書館見学（希望者対象）</p>	<p>豊田恭子（JPEカレッジ・サービス・リサーチ） 奈良岡功（自治医科大学図書館） 松田真美（医学中央雑誌刊行会）</p> <p>渡辺幸代（医療センター） 泉谷嗣郎（大阪赤十字病院） 原田 茂（大宮赤十字病院） 安東正子（姫路赤十字病院）</p>
-----------------	--	--



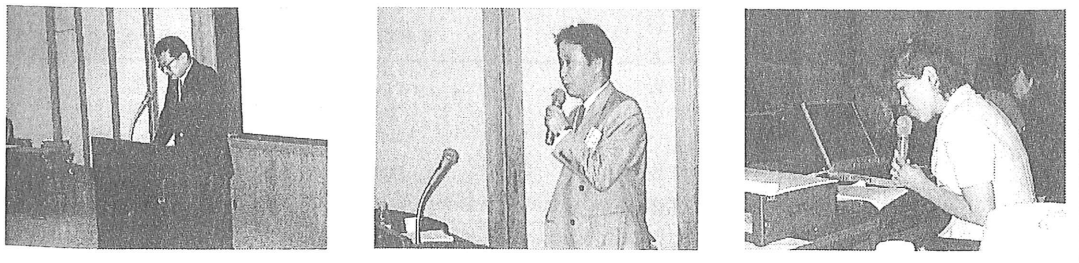
<p>8   2001.7.26</p> <p>2001.7.27</p>	<p><b>公開講座</b></p> <p>1. 目標管理手法の導入と図書館活動の事例 2. 闘病記と患者情報ネットワーク 3. 私はライブラリアン！：映画の中の図書館員 4. 実践！図書室ホームページの作成</p> <p><b>基礎教育講座</b></p> <p>1. パソコンのトラブル 予防と対処方法：Windows 2. パソコンのトラブル 予防と対処方法：Macintosh</p> <p><b>事例報告</b></p> <p>1. 患者図書サービスを試みて 2. 図書室の利用指導 3. 図書室活性化への道</p>	<p>鈴木成年（㈱日本人材開発センター） 星野史雄（オンライン古書館パラダイカ） 東 史（東京大学大学院数理学研究科図書室） 奥出麻里（川鉄千葉病院）</p> <p>原田 茂（大宮赤十字病院） 天野いづみ（静岡赤十字病院）</p> <p>矢口和子（葛飾赤十字病院） 塚越貴子（前橋赤十字病院） 黒石正樹（広島赤十字・原爆病院）</p>
---------------------------------------	---	---

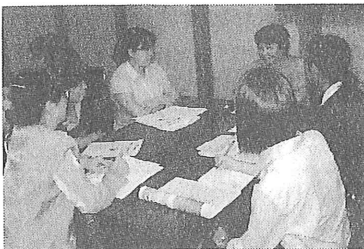


	<p>4. 鳥取日赤の図書室だより紹介                  ランチセッション 事例報告を参考に情報交換                  ビデオ放映 『新・看護と図書館 上巻：看護情報の探し方』紀伊國屋書店                  基礎教育講座                  1. コクランライブラリープロダクトレビュー                  2. 国内医学文献データベース JMEDICINE</p>	<p>北山綱代（鳥取赤十字病院）                   ベルブック                  日本科学技術振興事業団</p>
--	---	---



<p>9 2002.7.18           2002.7.19</p>	<p>特別講演 赤十字病院の運営状況等について                  基礎講座                  1. 初心者のためのPub Med講座                  2. 患者さんへの医学情報の提供                  事例報告&amp;情報交換会                  1. パワーポイントを使った利用案内                  2. 相互貸借へのファイルメーカーProの活用                  3. 病院機能評価を受審して                  4. 24時間入館システムの導入                  公開講座                  1. デジタル化時代と病院図書館：デジタル情報サービスの実際                  2. 医学論文作成から雑誌編集の基礎知識                   3. 病院図書室をめぐるいくつかの課題                  4. 利用者支援への図書館員のビジョンとミッション</p>	<p>三村周二（日本赤十字社医療事業部                  企画課長）                  座長：矢口和子（葛飾赤十字病院）                  鳥淵早希子（日赤和歌山医療セン                  ター）                  飯田育子（浜松赤十字病院）                  座長：原田 茂（大宮赤十字病院）                  塚越貴子（前橋赤十字病院）                  安東正子（姫路赤十字病院）                  前澤好弘（長野赤十字病院）                  渡辺幸代（日赤医療センター）                  座長：木下久美子（高山赤十字病                  院）                  熊谷智恵子（虎の門病院図書室）                  青木 仕（順天堂大学図書館）                  座長：天野いづみ（静岡赤十字病                  院）                  首藤佳子（星ヶ丘厚生年金病院図書                  館）                  林 聖子（日本立地センター）</p>
--	--	---





10 2003.7.31

**基礎講座**

1. 利用者への文献検索支援
2. 利用者への学術発表の支援：PowerPointの基礎研修

MDConsultの案内

**事例報告&情報交換会**

1. 電子ジャーナルの登録と活用：イントラネットを利用して
2. 司書アシストを導入して
3. 院内医学雑誌編集作業に関わって：病院の変革とともに

2003.8.1

**公開講座**

1. 利用者への情報提供手段としてのホームページの活用
2. これからの病院図書室
3. インターネットをレファ業務に活かす：検索の達人を目指そう
4. 病院経営と図書館マネジメント：病院のビジョンに沿った図書室の運営について  
図書館見学（希望者対象）

座長：矢口和子（葛飾赤十字産院）

木下久美子（高山赤十字病院）

原田 茂（さいたま赤十字病院）

丸善(株) 大熊高明

安東正子（姫路赤十字病院）

松原洋子（成田赤十字病院）

野口通世（徳島赤十字病院）

座長：渡邊幸代（医療センター）

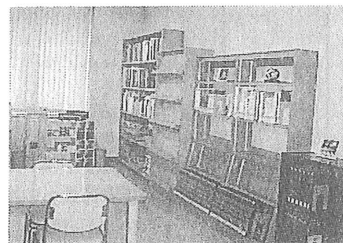
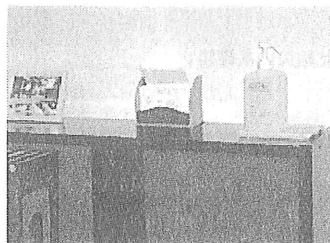
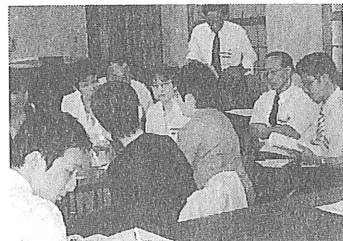
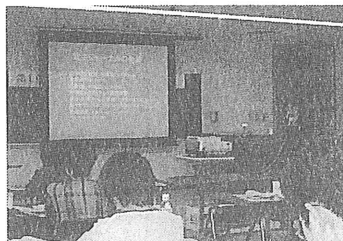
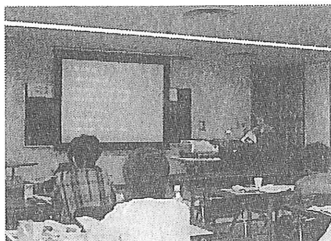
牛澤典子（東邦大学医学部メディアセンター）

増田寛次郎（日赤医療センター院長）

関 裕司（(株)増進会出版社広報課）

吉富まち子（竹田綜合病院図書室）

日赤医療センター図書室



日赤医療センター図書室内「やさしい医学書コーナー」